

\*平成26年度名医に学ぶセミナー 兼 TR セミナー

／D2 “Learning from Experienced Doctors Seminar, 2014”, D4 “Translational Research Seminar”\*

# 重症大動脈弁狭窄症に対する新たな挑戦、 TAVI の有用性と将来性

● 講師：桃原 哲也先生

【公益財団法人 日本心臓血圧研究振興会附属 榊原記念病院 循環器内科部長、  
内科系集中治療部門・部門長】

● 日時：平成26年12月3日（水）17:30～

● 場所：医学教育図書棟3階 第2講義室

• Lecturer: Dr. Tetsuya Toubaru

[Director, Department of Cardiovascular Medicine, The Sakakibara Heart Institute]

• Date: December 3<sup>rd</sup> (WED) from 17:30.

• Place: Lecture room 2, Medical Education & Library Building 3F.

2010年4月からTAVIの治験であるPREVAIL JAPANが始まり、64例がエントリーされその結果を受け、2013年10月からTAVIが保険償還されました。現在、国内では施設基準を満たした40前後の施設において800件を超える症例がすでに治療を行われました。30日死亡率は1%前後で、欧米と比較して非常にいい成績でした。しかし、死亡に至らないまでも弁の左室内脱落、冠動脈閉塞、GWによる左室損傷、アクセス部位の損傷など合併症が報告されています。

当院は、大阪大学と倉敷中央病院とともに治験を担当し、その症例を含めて今年の10月30日までに107例の症例を経験しました。弁輪部破裂や総腸骨動脈の破裂、冠動脈の閉塞、弁の embolization（下行大動脈に留置）、広範囲の脳梗塞などの合併症を経験しています。その半面、TAVIはAVRのリスクの高い方もしくは困難な方に対して、適応を間違えなければ、当院の経験からも非常に有用で将来性がある治療であることは間違いないと考えています。

今回は、これぞTAVIという症例、合併症を起こしてリカバリーした症例などを中心にお話ししたいと考えています。

担当：循環器内科学 小川久雄教授／Prof. Ogawa (Dept. of Cardiovascular Medicine)

レポート提出先/Essay（小川教授宛/To Prof. Hisao Ogawa）：ogawah@kumamoto-u.ac.jp

レポート提出先/Essay(CC:医学教務/Student Affairs Sec): [iyg-igaku@jimu.kumamoto-u.ac.jp](mailto:iyg-igaku@jimu.kumamoto-u.ac.jp)